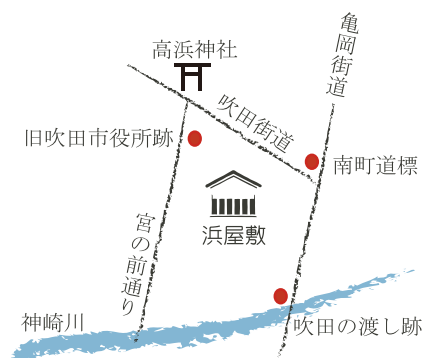


浜屋敷って何？

浜屋敷は江戸時代吹田村の旧庄屋敷です。吹田市が寄贈を受け、歴史と文化のまちづくりに関わる文化活動や交流の場として活用するため、改修整備して2003年6月、吹田歴史文化まちづくりセンターとして生まれ変わりました。2004年公募で選ばれた愛称「浜屋敷」は高浜町と南高浜町の「浜」に「お屋敷」を重ねたもので、やさしい響きで親しまれています。

浜屋敷かいわい

このあたりは農村地帯でありながら1200年前の昔から、京阪神を結ぶ神崎川の水運、亀岡街道・吹田街道の陸路の交差点でした。はじめは津として、江戸時代からは在郷神として発展してきました。南200mの所にある神崎川には「吹田の渡し跡」があります。かつてこの屋敷も過書株を取得し河川運輸に携わっていました。また北側には旧吹田市役所の跡もあります。



(注)お車でのご来館はご遠慮ください。

最寄駅 JR京都線 吹田駅徒歩15分
阪急京都線 相川駅徒歩10分
阪急バス 高浜神社前徒歩5分



浜屋敷ご利用案内

〒564-0025 大阪府吹田市南高浜町6-21
TEL : 06-4860-9731 / FAX : 06-4860-9725

開館時間 / 午前9:00～午後10:00
休館日 / 12月29日～1月3日
(他、施設点検の臨時休館日があります。)

観覧 / 無料
貸室 / 有料(要申し込み)

蔵棟

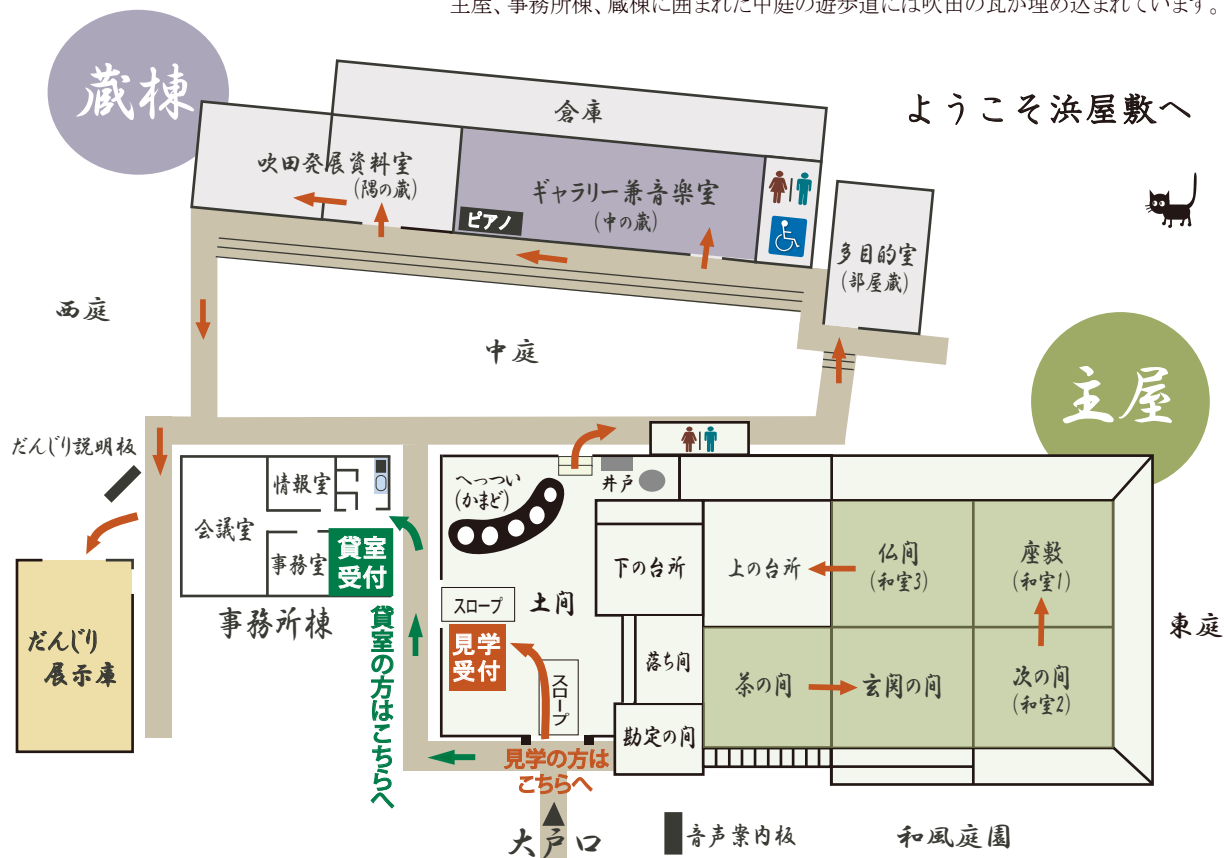
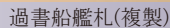
「中の蔵」「隅の蔵」からな
つています。それぞれの蔵
は多目的室、ギャラリー
兼音楽室、吹田発展資料
室として活用しています。

昔の梁や板張りの床をそのまま残した一室で、様々な用途で使えます。

作品展示や音楽の練習、また小さなコンサート会場に使えます。ピクチャーレール、アップライトピアノを設置し、防音設備も完備しています。

吹田が船運や交通の要衝として発展してきた様子や、当時の人々の暮らしについて展示や映像で紹介しています。

また吹田の民話を紙芝居風朗読の映像付きで楽しめます。



吹田に残るだんじりは江戸時代に建造され建造年代や制作にあつた大工、彫り物師の名が書かれた棟札や墨書があること、また建造時の姿や部材がかなり残っていることは特筆に値します。

また現在、曳行できるものが7台も残されているのは大阪府内でもめずらしいことです。前述7台のだんじりは吹田市有形民俗文化財に指定されています。展示されるだんじりは定期的に入れ替わります。

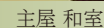
「だんじりのある町」
かねてん かわら じんけい
金田町、川面町、神境町、
ろくじせう におく はま とう
六地藏、西奥町、浜の堂、
とろす
都呂須町



Danjiri だんじり
展示庫

主屋

日本の伝統的建築技術によって造られた主屋は、敷地内で「くらし」の中心的存在をなす建物です。畳の間に構成された「田の字型」の間取りが特徴で土間を併せ持っています。屋根は入母屋造りで落ち着いた雰囲気醸し出しています。



土間とへっつい

土間はタタキとも呼ばれ大戸口側（オモテ）には年貢米などが置かれていました。その反対側ウラにはかまど（シリ）（流し）井戸が据えられていました。かまどは大阪府内では「つつい」と呼ばれていました。浜屋敷のつついは五口の焚口が大きい順にぐるりと円弧状に連なり、美しい勾玉形となつています。

